

TAの活躍を促す6つのポイント

- ・TAは教育活動を補助してくれる存在です。大学院生のアルバイトという見方もありますが、そこから一步考えを進め、TAを貴重な教育機会ととらえてはどうでしょうか。大多数のTAが、役割を与えられ、授業の中で活躍できることを望んでいます。
- ・大学院生が特定分野の狭い研究に専念すると、知識の統合や実践、他者への説明といった機会が減り、卒業後の社会で活躍するための経験が十分学べなくなる恐れがあります。
- ・大学院生が教育者としての経験を得ることは、専門領域に対する幅広い理解力、初学者の理解を判断する洞察力、他者と円滑なコミュニケーションを行う力、集団をまとめる統率力等を高める訓練になり、有益と考えられます。

① オリエンテーションを行う

初回の授業日までに、TAと面談をしましょう。ごく短時間でかまいません。授業の目標や授業の計画を説明し、「なぜこの授業にTAが必要なのか」「TAのあなたに何を期待しているか」を説明しましょう。

過去のTAの活動内容を紹介したり、実際に先輩TAを紹介してもよいでしょう。



② 授業内容の理解を促す

多くのTAが、授業内容の知識が足りずに学生からの質問に答えられなかったという悔しい経験をしています。TAには授業の内容を十分に理解してもらいましょう。

毎回の授業の数日前に進行手順・実験手順を伝えたり、練習問題・予習課題や読むべき文献を渡しておきましょう。



③ 職務を明確に指示する

TAの公式労働時間は大変短いのが現状で、学生からの時間外の質問に善意で対応しているTAも多くいます。

従業時間は授業時間中が主なのか、授業時間外なのか、内容は実験補助なのか、採点補助なのか、グループ討論のファシリテータなのか、教員が求める主たる職務と労働時間算定の対象を明確にTAに示しましょう。



④ 受講生にTAを紹介する

学生の前でTAを紹介し、授業にどのように関与するかを説明しましょう。これにより教員、学生、TAの三者間でTAの位置づけが明確になり、TA自身が職務を自覚するとともに、授業に参加しやすくなります。また、学生もTAに何を期待できるのかを理解できます。

初回の授業に限らず、学生とTAが接する場面を積極的に設定し、学生がTAから学ぶ機会を作るよう心掛けましょう。



⑤ 授業後に振り返りの機会を持つ

授業後は、TA活動で優れた点を褒め、不適切な点や学生指導上の知識・技術不足は改善するよう指導しましょう。毎回の授業後に、TAの活動内容とその省察をごく簡単にまとめさせ、業務報告書として提出させてもよいでしょう。

TAの活動が客観化できる上、次年度以降のTAの参考資料にもなります。



⑥ 評価に関わらせる場合は入念に指導する

TAは、評価活動に強い緊張・不安を感じます。評価基準が不明確なほど、その傾向は高まります。

TAを評価活動に関わらせる場合は、評価基準の明確化、手順や方法の標準化を行い、最終的な責任が教員にあることを伝え、上での従事させましょう。また、評価に必要な知識や技能を備えているかも確認しましょう。



「TAの活躍を促す6つのポイント」は「平成18年度TAによるTA制度の現状に関する意見交換ワークショップ」の結果に基づいて作成されました。

TAワークショップ担当（山田康彦・丸山直樹・中西良文・中島英博）

学生を支援する6つのポイント

- TA制度のねらいは、授業補助による教育効果の向上だけではありません。TAという指導者の役割を体験する事で、大学院生は自分の学びを深めるだけでなく、指導者としてのスキルが上達します。この機会を活かすためには、TAの自覚と、教員との協力が必要不可欠です。
- TAは雇用契約のもとに運営されています。教員、学生とのやり取りだけではなく、毎月一回の「勤務実績報告書」の提出等の事務手続きにおいても、社会人としての態度を意識してください。

① 職務内容を確認しましょう

教員と打ち合わせを行い、授業構成や必要な知識、技術、役割を確認しましょう。シラバスを参照する事も重要です。

TAの業務は実験指導やレポート指導、グループワークのファシリテーション、成績評価の手伝いなど多岐に渡ります。授業によって仕事量にも差があります。事前にイメージを共有することで、効果的な実践につなげます。



② TAとしての心構えを確認しましょう

TAは指導者です。学生と教科担任への敬意を忘れず、誠実に、公平に接してください。

TAの姿勢は授業への参加態度（遅刻、服装、言葉遣い）から判断されます。質問や会話のしやすい雰囲気は支援を促進します。また、公私の区別をつけ、連絡先や成績等の個人情報の扱いには十分注意しましょう。



③ 学修支援の知識と技術を学び、活用しましょう

コーチングやファシリテーターの考え方・技術は、学生支援に役立ちます。学内のTA研修を活用した、スキルアップも可能です。

グループ学習を上手く進めたり、学生の話を「傾聴」したり、「発問」により学生の行動を促したり、効果的な指導には、テクニックも重要です。



④ 授業後に教員と打ち合わせの機会を持ちましょう

学生の理解度や態度などについて教員と共有し、気になる点を相談します。TAは、教員よりも近い立場で学生に接する事で、教員に見えない情報を得ることがあります。

教員に、次の授業準備について質問をしたり、自分の学生指導について、フィードバックをもらう事も重要です。



⑤ TAをキャリアとして考え、スキルをアップさせましょう

TA業務を皆さんのキャリアとして位置づけ、自身の能力を試し、成長させる機会として活用してください。

TA制度を、将来の大学教員（指導者）候補生として訓練する機会と捉え、資格を認定する大学もあります。指導者の立場でTAが体験する事は、将来にむけた大きな財産になるはずですよ。



⑥ 学内の相談機関を知り、問題に備えましょう

問題を一人で抱え込まないように注意しましょう。

TAの業務中に問題に巻き込まれることがあります。各種ハラスメントの加害者、被害者にならないように注意してください。「学生なんでも相談室」や相談窓口 (<http://www.mie-u.ac.jp/students/support/harassment.html>) 等、第三者機関にも相談できます。



「学生を支援する6つのポイント」は、平成25年、高等教育創造開発センター教育開発部門によって作成されました。

TA制度の目的は、次のように述べられています。「優秀な大学院生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、学部教育におけるきめ細かい指導の実現や大学院学生が将来・研究者になるためのトレーニングの機会の提供を図るとともに、これに対する手当支給により、大学院生の処遇の改善の一助とする事」(文部省、1995)